

脳卒中発症前の COX-2 阻害薬の使用で短期死亡リスクが上昇

非ステロイド抗炎症薬（NSAID）は炎症や痛みの治療に広く使用されており、非選択性 NSAID とシクロオキシナーゼ - 2 選択的 NSAID(COX-2 阻害薬)に分類される。

COX-2 阻害薬と虚血性脳卒中リスクとの関連はこれまでに報告されているが、脳卒中を発症する前の COX-2 阻害薬の使用が脳卒中の予後に与える影響については明らかにされていない。そこで本研究では、NSAID の使用と脳卒中発症後の短期死亡リスクとの関連について、全国的なコホート研究を実施し検討した。

デンマークの医療データベースから、2004~2012 年に初発の脳卒中で入院した患者 100,043 例のデータを抽出し、脳卒中発症後 30 日間の死亡について調査した。NSAID の使用時期により、現在の使用者（入院前 60 日以内に処方された者）、過去の使用者、非使用者、に分類した。さらに「現在の使用者」については、新規使用者（初めて処方された者）または長期使用者（以前にも処方されたことのある者）に細分類した。その結果、「現在の使用者」は 10.8%、「過去の使用者」は 8.4%、「非使用者」は 80.8%であった。虚血性脳卒中発症後 30 日間の死亡率は、NSAID 非使用者に比べ COX-2 阻害薬の「現在の使用者」で高く（ハザード比：1.19）、とくに新規使用者のリスクが高かった（ハザード比：1.42）。過去の使用者では、脳卒中死亡との関連はみられなかった。一方、非選択性 NSAID と脳卒中死亡率には関連は認められなかった。また、頭蓋内出血による死亡リスクは、いずれの薬剤とも関連していなかった。

これらの結果より、虚血性脳卒中の発症前に COX-2 阻害薬を使用すると、脳卒中発症後の短期死亡リスクが高まることが示唆された。

出典：Neurology. 2014; 83(22): 2013-2022